

令和7年度

1年次

シラバス

学習指導計画

滋賀県立瀬田工業高等学校 定時制課程

令和7年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	国語	科 目	現代の国語	学 年	類 型	単 位 数
				1	全 員	2
学習の 目標	国語を通して主体的に表現する力を身につける。国語の語彙や構造を理解する。他者との関わりを通して実社会に必要なコミュニケーション力等を育成する。国語を尊重してその能力の向上を図る態度を育てる。					
使用教科書	大修館書店・新編 現代の国語		副教材等	なし		
評 価	評 価 法		ワークシート、定期考査、行動観察、小テスト等			
	評 価 観 点 の 趣 旨	a	知識・技能	実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、文章の構造や特色、用法及び表記のしかたなどを理解している。口語や文章の中で語句を使うことにより語感を磨き、語彙を豊かにしている。		
		b	思考・判断・表現	「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述をもとに的確にとらえ、要旨や要点を把握している。		
		c	主体的に学習に取り組む態度	文章を読んで筆者の主張を読み取ることに意欲的に取り組み、「現代の国語」の学習に前向きに取り組もうとしている。		
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

学期	月	時数	学習項目	学習内容（単元の目標・評価基準等）	評価方法		
					a	b	c
前期	4	2	1 ことばをひらく「変わる」ことを楽しもう・コミュニケーションは技術だ。 【読むこと】2H	○変化がめまぐるしく、多様化した現代社会において大切なことは何かを考える。また、これから先の人生において失敗をおそれずに技術を磨いていくことの重要性を考える。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すと共に、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記のしかたなどを理解し、話しや文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・読むことにおいて、文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述をもとに的確にとらえ、要旨や要点を把握している。 ・文章を読んで筆者の主張を読み取ることに意欲的に取り組み、「現代の国語」の学習に前向きに取り組もうとしている。	ワークシート 小テスト	ワークシート 小テスト	行動観察 振り返りシート
	4	3	1 ことばをひらく「変わる」ことを楽しもう・コミュニケーションは技術だ。 【書くこと】3H	○学習した内容を踏まえ、自身がどのような学校生活を送っていたのかを自分の言葉で表現する。 ・筆者の主張を踏まえた上で、自身の考えが正確に伝わるように表現を工夫することができる。 ・正確で丁寧な言葉遣いをすることができる。	ワークシート 小テスト 前期中間考査	ワークシート 小テスト 前期中間考査	行動観察 振り返りシート

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
前 期	4	3	1 ことばをひらく 「変わる」ことを 楽しもう・ コミュニケーションは技術 だ。 【話すこと・聞くこ と】3H	○自分の考えを相手に伝わるように表現するとともに、他者の考え を尊重する態度を持つ。 ・どうすれば相手に伝わりやすいのかを考え、自分なりに工夫 することができる。 ・他者の話を聞き、自分の知識や技術を深めることができる	ワーク シート 小テスト 前期中 間考查	ワーク シート 小テスト 前期中 間考查	行動観 察 振り返 りシー ト
	5	8	2 日本語を使いこ なす ことばの使い 分け 文を整え、文を つなぐ。 【書くこと】8H	○日本語を使いこなすための基礎的な知識を学び、ショートスピー チにつなげる。 ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色をふまえ、正 確さやわかりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表 現や言葉遣いについて理解し、使っている。 ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続のしかたについて 理解している。 ・文をわかりやすく整えたり、文を適切につないだりすることに 興味をもち、積極的に学習に取り組もうとしている。	ワーク シート 小テスト 前期中 間考查	ワーク シート 小テスト 前期中 間考查	行動観 察 振り返 りシー ト
	6	5	3 わかりやすく説 明をする ナ ン バ ー ワ ン か、オ ン リ ー ワ ン か 【読むこと】5H	○接続表現に気をつけて読み、説明のしかたをとらえる。問題提起 とその答えを意識しながら読み、文章全体の構成をつかむ。 ・文、話、文章の効果的な組み立てや接続の仕方について理解 している。 ・読むことにおいて、文章の内容や構成等を的確にとらえ、要旨 や要点を把握している。 ・読むことに興味をもち、順序や接続表現等に注意して読もうと している。 ・説明的な文章を読むことに興味をもち、順序や接続表現、問題 提起と答えに注意して読もうとしている。	ワーク シート 小テスト	ワーク シート 小テスト	行動観 察 振り返 りシー ト
	7	5	ショートスピー ーチをしよう 【話すこと・聞くこ と】5H	○話しの内容を考え、構成や展開を工夫して話す。総合評価をす る。 ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続のしかたについて 理解している。 ・自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確に するとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、 話の構成や展開を工夫している。 ・声の大きさや話す早さ、表情や身振りなどを意識して話すこ とができる。	ワーク シート 小テスト	ワーク シート 小テスト	行動観 察 振り返 りシー ト

	9	6	4 聞く力を育む 聞き取りのレッスン 聞き取ったことをまとめよう 【話すこと・聞くこと】6H	○大切なことを落とさずに、正確に聞く。自分にとって必要な情報を意識して、メモを取りながら聞く。 ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色をふまえ、正確さ、わかりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解して使っている。 ・論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現のしかたを評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・実生活において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語彙や語句の構造や特色、用法及び表記のしかたなどを理解し話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	ワークシート 小テスト 前期期末考査	ワークシート 小テスト 前期期末考査	行動観察 振り返りシート
後期	10	3	5 論理の展開を読み取ろう オカピの胃袋はいくつか 商品と贈り物の違い 【読むこと】3H	○筆者の主張とその根拠を意識しながら読む。また、具体例の働きをとらえ、具体と抽象の関係を考えながら読む。そして、対比の関係を意識しながら読む。 ・主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。 ・文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を的確にとらえ、要旨や要点を把握している。 ・論理的な文章を読み取ることに関心をもち、論理展開をとらえようとしている。 ・筆者の論理展開における工夫を読み取り、自身が論を展開する際の留意点について学ぶ。	ワークシート 小テスト 後期期末考査	ワークシート 小テスト 後期期末考査	行動観察 振り返りシート 後期期末考査
	10	4	5 論理の展開を読み取ろう オカピの胃袋はいくつか 商品と贈り物の違い 【書くこと】4H	○論理展開について意識し、他者を納得させることができるような文章を書くことができる。 ・主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。 ・文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を的確にとらえ、自身の伝えたい内容を的確に表現できる。 ・論理展開における留意点を意識し、筋道を立てた論を展開することができる。	ワークシート 小テスト	ワークシート 小テスト	行動観察 振り返りシート
	11	4	6 伝え合いのレッスン 対話のレッスン 【書くこと】4H	○相手の場面に配慮した言葉遣いや表現の仕方を学ぶ。 ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色をふまえ、正確さ、わかりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使いこなすことができる。 ・話し言葉の特徴をふまえて話したり、相手の理解が得られるように工夫したりしている。	ワークシート 小テスト	ワークシート 小テスト	行動観察 振り返りシート

令和7年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	公民	科 目	公 共	学 年	類 型	単 位 数
				1	全 員	2
学習の 目標	・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ・現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 ・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。					
使用教科書	高等学校 公共 （数研出版）			副教材等	なし	
評 価	評 価 法		定期考査、プリント、小テスト、レポート、記述や発言の様子、学習に向かう行動観察			
	評 価 観 点 の 趣 旨	a	知識・技能	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。		
		b	思考・判断・表現	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。		
		c	主体的に学習に取り組む態度	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。		
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

学期	月	時数	学 習 項 目	学 習 内 容（単元の目標・評価基準等）	評 価 方 法		
					a	b	c
前期	4		公共的な空間をつくる私たち		プリント 小テスト	プリント 小テスト ワークシート	記述や発言の様子 観察
		2	1. 大人ってどんな人	・ 青年期は自立や自律をはかる重要な時期であることを理解できている。			
		2	2. お互いを理解し尊重するために	・ 伝統や文化, 宗教などを背景にして現代の社会が成り立っていることが理解できている。 ・ 古代から近代の日本の思想家の思想内容が理解できている。			
		2	3. 誰もが生きやすい社会へ	・ 自分たちが生きる社会が, 様々な背景を持つ多様な人々から成り立っていることを理解できている。			
	5	4	第1章 公共的な空間における人間としての在り方生き方 第1節 西洋近現代の思想	・ 近世・近代・現代の世界の思想家の思想内容が理解できている。 ・ 先哲の思想や生き方から自分自身の生き方を検証し, 公共的な空間を作る主体としての自己の生き方について考察できている。			

学期	月	時数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
前期	5	5	第2節 現代の諸課題と倫理	・地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの事象について理解できている。 ・公共的な空間における人間としての在り方生き方を考察するための選択・判断の手掛かりが考察できている。	プリント 小テスト	プリント 小テスト ワークシート	記述や発言の様子 観察
	6		第2章 公共的な空間における基本原理				
		5	第1節 民主社会の原理	・人間の尊厳と平等，個人の尊重，民主主義，法の支配，自由・権利と責任・義務など，公共的な空間における基本的原理について理解できている。 ・基本的原理を考察することによって，個人と社会との関わりを多面的・多角的に考察することができている。	前期中間考査	前期中間考査	
	7	6	第2節 日本社会の原理	・日本国憲法の基本原理や保障されている権利が理解できている。 ・日本国憲法の基礎にある考え方に着目し，公共的な空間における基本的原理との関連を考察することができている。	プリント 小テスト	プリント 小テスト ワークシート	記述や発言の様子 観察
	9		第3章 ルールを作り守る私たち				
		4	第1節 法と契約	・法や規範の意義や役割が理解できている。 ・日常の買い物や銀行のクレジットカードなど，身近な契約の例を挙げることができる。			
		5	第2節 司法参加の意義	・公正な裁判には司法権の独立が必要であり，国民の参加が大切であることが理解できている。 ・裁判員制度がどのような目的で創設されたか考察できている。 ・裁判によって国民のどのような権利が守られているのか考察できている。	前期末考査	前期末考査	

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容（単元の目標・評価基準等）	評 価 方 法			
					a	b	c	
後 期	10	4	第 4 章 政治に参加する私たち		プリン ト	プリン ト	記述や 発言の 様子	
			第 1 節 政治参加と民主政治の課題	・地方自治や選挙の仕組み, 政党の役割を考察することによって具体的に民主政治を支える制度を理解できている。 ・選挙制度の違いによって, 政党制にも大きな違いがでてくることを考察できている。	小テスト	小テスト	観察	
		3	第 2 節 国際政治の動向	・国際法の意義や国際紛争を解決する機関の役割が理解できている。 ・国際連盟・国際連合の組織と役割が理解できている。 ・冷戦の成立とその終結後の国際政治の流れが理解できている。 ・集団的安全保障がなぜ有効なのか考察できている。 ・国連の現状と課題について考察できている。		ワーク シート		
	11	5	第 3 節 国際政治の課題と日本の役割	・国際社会の中で平和主義を掲げる日本の役割が理解できている。 ・核軍拡から核軍縮への流れが理解できている。 ・現代の世界の紛争や人権問題について理解できている。 ・国際問題について自分なりの意見を持ち, 他者に説明できている。				
		12	5	第 5 章 政治活動を行う私たち		プリン ト	プリン ト	記述や 発言の 様子
				第 1 節 経済のしくみと産業の変化	・現代の企業の果たしている役割が理解できている。 ・中小企業や農業の果たしている役割と現状を理解できている。 ・産業構造の変化と職業選択との関係や, 雇用・労働問題について理解できている。 ・現代の企業倫理について考察できている。 ・経済のサービス化が進展し, 国民生活にどのような変化をもたらしたか考察できている。	小テスト	小テスト	観察
4	2 節 市場経済のしくみと金融		・市場経済のメカニズムが理解できている。 ・各種経済指標を理解し, その指標の動向を読み解くことができている。 ・金融のしくみを理解し, 経済状況に応じて適切な手段を提示できている。 ・需給曲線を使って, どのような場合に価格が変動するのか考察できている。 ・GDP が大きいことが豊かさにつながるのかどうか, 豊かさについて自分なりに判断できている。	後期中 間考查	後期中 間考查			
1								

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	1	4	第3節 財政と社会保障	・ 政府が経済に果たしている役割を理解できている。 ・ 財政のしくみを理解し、経済状況に応じて適切な手段を提示できている。	プリン ト	プリン ト	記述や 発言の 様子
	2	5	第4節 国際経済の動向と 課題	・ 社会保障について理解できている。 ・ 自身の老後生活を予想し、租税（支払い）と社会保障（受取り）とのバランスを考察できている。 ・ 貿易や外国為替相場について、そのしくみが理解できている。 ・ 戦後の国際経済の流れが理解できている。 ・ 発展途上国の現状を知り、貧困や飢餓などの原因や課題を理解できている。 ・ 経済のグローバル化と相互依存関係が深まっていることを理解し、それが日本経済にどのような影響を及ぼしているかを考察できている。	小テスト	小テスト ワーク シート	観察
	3	5	課題探究編		後期末 考查	後期末 考查	
			課題探究の観点	・ 現代社会に生きる私たちの課題を指摘できている。 ・ 現代社会の諸問題について、その問題の所在、現状、問題点などが理解できている。 ・ さまざまな課題の中で、自己とのかかわりに注目して主体的に課題を選択し、探究できている。			

担当者からのメッセージ（学習方法など）
・ 授業の進め方 教科書の内容にそって進んでいきます。 ・ 授業では 「他者の意見をしっかり聞くこと」と「自分の意見を持つこと」両方を大切にしてください。 学習項目の各単元に関心を持ち、積極的に取り組んでください。 授業ごとのプリントやワークシートなどは毎回しっかり整理し、提出してください。 ・ 学習に向けて 教科書を丁寧に読んでください。 日ごろから身の回りで起こる様々な出来事を、自分事ととらえて考察してください。 ・ 持ち物 教科書、ファイル、タブレット、筆記用具 ※学習項目等は随時見直し、変更する場合があります。

令和7年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	数 学		科 目	数学Ⅰ	学 年	類 型	単 位 数
					1	全員	2
学習の 目標	数と式、集合と命題および2次関数について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。						
使用教科書	新編 数学Ⅰ(数研出版)				副教材等	な し	
評 価	評 価 法			ノート、ワークシート、定期考査、小テスト、行動観察、振り返りシート等			
	評価 観点 の 趣 旨	a	知識・技能	数と式、集合と命題および2次関数についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。			
		b	思考・判断・表現	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力を身に付けている。			
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。			
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

学期	月	時数	学 習 項 目	学 習 内 容 （単元の目標・評価基準等）	評 価 方 法		
					a	b	c
前期	4	2	第1章 数と式 第1節 式の計算 1. 多項式の加法と減法	○単項式や多項式、同類項、次数など式に関する用語を理解している。 ○多項式について、同類項をまとめたり、ある文字に着目して降べきの順に整理したりすることができる。 ○多項式の加法、減法の計算ができる。	ノート	ワークシート	行動観察
		2	2. 多項式の乗法	○指数法則を理解し、多項式の乗法の計算ができる。 ○展開の公式を利用できる。 ○式の形の特徴に着目して変形し、展開の公式が適用できるようにすることができる。 ○式の展開は分配法則を用いると必ずできることを理解している。 ○式を1つの文字におき換えることによって、式の計算を簡略化することができる。			
		4	3. 因数分解	○因数分解の公式を利用できる。 ○因数分解を行うのに、文字のおき換えを利用することができる。 ○複雑な式についても、項を組み合わせる、降べきの順に整理するなどして見通しをよくすることで、因数分解をすることができる。 ○式の形の特徴に着目して変形し、因数分解の公式が適用できるようにすることができる。	小テスト	小テスト	振り返りシート
	5	3	第2節 実数 4. 実数	○分数を循環小数で表すことができる。 ○有理数が整数、有限小数、循環小数のいずれかで表される理由を理解している。 ○有理数、無理数、実数の定義を理解し、それぞれの範囲での四則計算の可能性について理解している。 ○絶対値の意味と記号表示を理解している。 ○四則計算を可能にするために数が拡張されてきたことを理解している。	ノート	ワークシート	行動観察

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
前 期	6			○実数を数直線上の点の座標として捉えられる。また、実数の 大小関係と数直線とを関係づけて考察することができる。	小テスト 前期中 間考査	小テスト 前期中 間考査	振り返 りシー ト
		5	5. 根号を含む式 の計算 【課題学習 1 (黄金比)】	○平方根の意味、性質を理解している。 ○根号を含む式の加法、減法、乗法の計算ができる。また、分 母の有理化ができる。 ○根号を含む式の計算について、一般化して考えられる。 文字を用いて関係を見出し、黄金比を求めようとする。			
		2	第3節 1次不等式 6. 不等式の性質	○不等号の意味を理解し、数量の大小関係を式で表すことがで きる。 ○不等式の性質を理解している。	ノート	ワーク シート	行動観 察
		4	7. 1次不等式	○不等式における解の意味を理解し、1次不等式を解くことが できる。 ○連立不等式の意味を理解し、連立1次不等式を解くことがで きる。 ○ $A < B < C$ を $A < B$ かつ $B < C$ として捉えることができ、不 等式を解くことができる。 ○身近な問題を1次不等式の問題に帰着させ、問題を解決する ことができる。			
		2	8. 絶対値を含む 方程式・不等式	○絶対値の意味から、絶対値を含む方程式、不等式を解くこと ができる。 ○絶対値記号を含むやや複雑な式についても、適切に絶対値記 号をはずす処理ができる。	小テスト	小テスト	振り返 りシー ト
		7	3 第2章 集合と命 題 1. 集合	○集合とその表し方を理解している。また、2つの集合の関係 を、記号を用いて表すことができる。 ○空集合、共通部分、和集合、補集合について理解している。 ○ド・モルガンの法則を理解している。 ○条件を満たすものを集合の要素としてとらえることができ る。 ○ベン図などを用いて、集合を視覚的に表現して考察すること ができる。	ノート	ワーク シート	行動観 察
	9	3	2. 命題と条件	○命題の真偽、反例の意味を理解し、集合の包含関係や反例を 調べることで、命題の真偽を決定することができる。 ○必要条件、十分条件、必要十分条件、同値の定義を理解して いる。 ○条件の否定、ド・モルガンの法則を理解し、複雑な条件の否 定が求められる。 ○命題の真偽を、集合の包含関係に結び付けてとらえることに よって考察することができる。 ○命題が偽であることを示すには、反例を1つあげればよいこ とが理解できている。			
		2	3. 命題とその逆・ 対偶・裏	○命題の逆・対偶・裏の定義と意味を理解し、それらの真偽を 調べることができる。			
		3	4. 命題と証明	○対偶による証明法や背理法のしくみを理解している。 ○命題の条件や結論に着目し、命題に応じて対偶の利用や背理 法の利用を適切に判断することで、命題を証明することがで きる。	小テスト 前期末 考査	小テスト 前期末 考査	振り返 りシー ト

学期	月	時数	学習項目	学習内容 (単元の目標・評価基準等)	評価方法		
					a	b	c
後期	10	3	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 1. 関数とグラフ 【課題学習2 (2次関数)】	$y = f(x)$ や $f(a)$ の表記を理解し、用いることができる。 ○与えられた条件から1次関数を決定することができる。 ○定義域に制限がある1次関数のグラフがかけ、値域が求められる。 ○2つの変数の関係を関数式で表現できる。 2次関数を活用して、利益が最大となる販売数を予測しようとする。			
	11	7	2. 2次関数のグラフ	$y = ax^2$, $y = ax^2 + q$, $y = a(x - p)^2$, $y = a(x - p)^2 + q$ の表記について、グラフの平行移動とともに理解している。 $ax^2 + bx + c$ を $a(x - p)^2 + q$ の形に変形できる。 ○平方完成を利用して、2次関数 $y = ax^2 + bx + c$ のグラフの軸と頂点を調べ、グラフをかくことができる。 ○放物線の平行移動や対称移動の一般公式を活用して、移動後の放物線の方程式を求めることができる。 ○2次関数の特徴について、表、式、グラフを相互に関連付けて多面的に考察することができる。 ○2次関数 $y = ax^2 + bx + c$ のグラフを、 $y = ax^2$ のグラフをもとに考察することができる。 ○放物線の平行移動を、頂点の移動に着目して、考察することができる。	ノート	ワークシート	行動観察
					小テスト	小テスト	振り返りシート
	12	6	第2節 2次関数の値の変化 3. 2次関数の最大・最小	○2次関数が最大値または最小値をもつことを理解している。 ○2次関数を $y = a(x - p)^2 + q$ の形に式変形して、最大値、最小値を求めることができる。 ○2次関数の定義域に制限がある場合に、最大値、最小値を求めることができる。 ○2次関数の値の変化をグラフから考察することができる。 ○具体的な事象の最大・最小の問題を、2次関数を用いて表現し、処理することができる。 ○定義域が変化するときや、グラフが動くときの最大値や最小値について、考察することができる。	ノート	ワークシート	行動観察
		5	4. 2次関数の決定	○2次関数の決定において、与えられた条件を関数の式に表現し、2次関数を決定することができる。 ○連立3元1次方程式の解き方を理解している。 ○2次関数の決定において、条件を処理するのに適した式の形を判断することができる。	小テスト	小テスト	振り返りシート
					後期中間考査	後期中間考査	
	1	3	5. 2次方程式	○2次方程式の解き方として、因数分解、解の公式を理解している。 ○2次方程式において、判別式 $D = b^2 - 4ac$ の符号と実数解の個数の関係を理解している。 ○2次方程式が実数解や重解をもつための条件を式で示すことができる。			
	2	4	6. 2次関数のグラフとx軸の位置関係	○2次関数のグラフとx軸の共有点の座標が求められる。 ○2次関数のグラフとx軸の共有点の個数を求めることができる。 ○2次関数のグラフとx軸の共有点の個数や位置関係を、 $D = b^2 - 4ac$ の符号から考察することができる。	ノート	ワークシート	行動観察

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 （単元の目標・評価基準等）	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	3	7	7. 2 次不等式	○2 次不等式を解くことができる。 ○2 次不等式を利用する応用問題を解くことができる。 ○2 次の連立不等式を解くことができる。 ○2 次関数の値の符号と 2 次不等式の解を相互に関連させて考察することができる。 ○2 次式が一定の符号をとるための条件を，グラフと関連させて考察することができる。	小テスト 後期末 考查	小テスト 後期末 考查	振り返りシート

担当者からのメッセージ（学習方法など）							
<授業の進め方> 教科書を基本に授業を展開します。 <持ち物> 教科書、ノート、筆記用具、タブレット <アドバイス> 数学が得意でない人もしっかりと授業を聞いて、自分なりにノートやワークシート等をまとめ、家で復習をしてください。 <その他> 生徒の状況に応じて、学習項目にかかる指導時間数や内容については変更することがあります。							

令和7年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	保健体育		科 目	体 育	学 年	類 型	単 位 数
					1	全 員	2
学習の 目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。						
使用教科書	保体701 現代高等保健体育（大修館）				副教材等	なし	
評 価	評 価 法			・実技（含運営・審判法）・提出課題・振り返りシート（毎時） ・小テスト（理論）・パフォーマンス課題（スピーチ発表・プレゼンテーション） ・学習に向かう行動観察により評価します。			
	評 価 観 点 の 趣 旨	a	知識・技能	・運動の合理的・計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。			
		b	思考・判断・表現	・自己や仲間の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組みや、目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。			
		c	主体的に学習に取り組む態度	・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的・計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。			
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
前 期	4	2	体育理論	スポーツの発祥と発展 ・スポーツの始まりと変容 ・文化としてのスポーツ	提 出 課 題	提 出 課 題	行 動 観 察
					小テスト	小テスト	
		4	体づくり運動	体ほぐしの運動 ・手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気づき、仲間と主体的に関わり合うこと。	実 技	実 技	実 技
	5	4	陸上競技	短距離走・投てき(砲丸投げ) ・短距離走では中間走の高いスピードを維持して早く走ること。 ・投てきでは立ち投げなどから砲丸を突き出して投げること。	行 動 観 察	ハーフ マン ス 課 題	振 り 返 り シ ー ト
		4	【選択種目】 ・器械運動	マット運動・跳び箱運動 ・マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと。 ・跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと。			
	6	14	・バスケットボール 【ゴール型】 ・バドミントン 【ネット型】 ・ダンス から選択	球技(ゴール型):バスケットボール ・状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防すること。 球技(ネット型):バドミントン ・状況に応じたシャトル操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすること。 ダンス:現代的なリズムのダンス ・リズムの特徴を強調して全身で自由に踊ったり、変化とまとまりをつけて仲間と対応したりして踊ること。			
	7	2		スポーツの発祥と発展	提 出 課 題	提 出 課 題	行 動 観 察
			体育理論	スポーツの発祥と発展 ・オリンピックとパラリンピックの意義	小テスト	小テスト	
	9	4	体づくり運動	実生活に生かす運動の計画 ・実生活に生かす運動の計画では、自己の狙いに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための継続的な運動の計画を立てて取り組むこと。	実技 行 動 観 察	実技 行 動 観 察 ハーフ マン ス 課 題	実技 行 動 観 察 振 り 返 り シ ー ト

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	10	19	【選択種目】 ・バレーボール 【ネット型】 ・テニス 【ネット型】	球技(ネット型):バレーボール ・状況に応じたボール操作や仲間との連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすること。	実技	実技	実技
	11		・柔道 から選択	球技(ネット型):テニス ・状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすること。 武道:柔道 ・相手の動きの変化に応じた基本動作から、得意技や連絡技・変化技を用いて、素早く相手を崩して投げたり、抑えたり、返したりするなどの攻防をすること。	行 動 観 察	行 動 観 察 パフォー マンス 課 題	行 動 観 察 振 り 返 り シ ー ト
	12	2	体育理論	スポーツの発祥と発展 ・スポーツが経済に及ぼす効果 ・スポーツの高潔さとドーピング ・スポーツと環境	提 出 課 題 小テスト	提 出 課 題 小テスト	行 動 観 察
	1	15	選択種目 ・サッカー 【ゴール型】 ・卓球 【ネット型】	球技(ゴール型):サッカー(フットサル) ・状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防すること。	実技	実技	実技
	2		から選択	球技(ネット型):卓球 ・状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすること。	行 動 観 察	行 動 観 察 パフォー マンス 課 題	行 動 観 察 振 り 返 り シ ー ト
	3						

担当者からのメッセージ（学習方法など）

- ・「体育」は必修科目で、1年次で2単位、2年次で2単位、3年次で3単位、合計7単位履修します。
- ・実技種目については、前項の学習内容を参考にしてください。
- ・「水泳」については夜間定時制であることを考え、実施していません。
- ・体操服は自由ですが、運動のできる服装・靴（体育館シューズは学校指定）で授業を受けてください。
- ・諸事情により実技ができない人は、教科担当まで申し出てください。

※学習項目等は随時見直し、変更する場合があります。

令和7年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	保健体育	科 目	保健	学 年	類 型	単 位 数
				1	全 員	1
学習の 目 標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。					
使用教科書	保体 701 現代高等保健体育（大修館）			副教材等	なし	
評 価	評 価 法			考查、提出課題（毎時）、パフォーマンス課題（スピーチ発表・プレゼンテーション・ディベート）、記述や発言の様子、学習に向かう行動観察により評価します。		
	評 価 観 点 の 趣 旨	a	知識・技能	個人および社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。		
		b	思考・判断・表現	個人および社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。		
		c	主体的に学習に取り組む態度	健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復および健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。		
		上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

学期	月	時数	学 習 項 目	学 習 内 容 （単元の目標・評価基準等）	評 価 方 法		
					a	b	c
前 期	4	13	現代社会と健康	○現代社会と健康について理解を深めること。 ○現代社会と健康について課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。	提出課題	提出課題	提出課題
				01 健康の考え方と成り立ち 02 私たちの健康のすがた ・国民の健康課題や健康の考え方は国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていることを理解している。 ・健康は様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていることを理解している。	行動観察	定期考査	パフォーマンス課題
				03 生活習慣病の予防と回復 04 がんの原因と予防 05 がんの治療と回復 06 運動と健康 07 食事と健康 08 休養・睡眠と健康 ・健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には運動・食事・休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であることを理解している。	定期考査	パフォーマンス課題	行動観察
	6	09 喫煙と健康 10 飲酒と健康 11 薬物乱用と健康 ・喫煙と飲酒は生活習慣病などの要因になること。また薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要なことを理解している。					
		7					
	9			4	12 精神疾患の特徴 13 精神疾患の予防 14 精神疾患からの回復 ・精神疾患の予防と回復には、運動・食事・休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに、心身の不調に気付くことが重要であること。また、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であることを理解している。	提出課題	提出課題
		行動観察			定期考査	パフォーマンス課題	
		定期考査			パフォーマンス課題	行動観察	

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	10	8	現代社会と健康	15 現代の感染症 16 感染症の予防 17 性感染症・エイズとその予防 ・感染症の発生や流行には時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人の取り組み及び社会的な対策を行う必要があることを理解している。	提出課題	提出課題	提出課題
	11			18 健康に関する意思決定・行動選択 19 健康に関する環境づくり ・健康の保持増進には、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わることを理解している。	行動観察	定期考査	パフォーマンス課題
					定期考査	パフォーマンス課題	行動観察
	12	10	安全な社会生活	○安全な社会生活について理解を深めるとともに、応急手当を適切にすること。 ○安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現すること。	提出課題	提出課題	提出課題
				01 事故の現状と発生要因 02 安全な社会の形成 03 交通における安全 ・安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取り組みが必要である。また、交通事故を防止するには、車両の特性の理解・安全な運転や歩行など適切な行動・自他の生命を尊重する態度・交通環境の整備が関わること。交通事故には補償をはじめとした責任が生じることを理解している。	行動観察	定期考査	パフォーマンス課題
	1			04 応急手当の意義とその基本 05 日常的な応急手当	定期考査	パフォーマンス課題	行動観察
	2			06 心肺蘇生法 ・適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法があること。また、応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることを理解している。			
	3						

担当者からのメッセージ（学習方法など）

- ・本校では「保健」を1年次で1単位、2年次で1単位の合計2単位を履修します。
- ・卒業要件の必修科目なので、必ず履修する必要があります。
- ・1年次では「現代社会と健康」・「安全な社会生活」について学習し、2年次では「生涯を通じる健康」・「健康を支える環境づくり」について学習します。
- ・学習端末タブレットを使用した授業展開をします。
- ・毎時間の提出課題は、電子データとするものや、プリントによるものがあります。

※学習項目等は随時見直し、変更する場合があります。

令和7年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	外国語	科 目	英語コミュニケーションⅠ	学 年	類 型	単 位 数
				1	全員	2
学習の 目標	・ 英語学習の特質を踏まえ、聞くこと、読むこと、話すこと（やり取り）、話すこと（発表）、書くことの五つの領域の能力と資質を育成する。 ・ 日常的・社会的な話題について、話される速さや、使用する語句や文、情報量、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、話し手や書き手の意図を理解し、英語でコミュニケーションをとることができる能力と資質を育成する。					
使用教科書	Amity English CommunicationⅠ			副教材等	なし	
評 価	評 価 法		定期考査（考）、小テスト（小）、パフォーマンステスト（パ）、振り返りシート（振）、ワークシート（ワ）			
	評 価 観 点 の 趣 旨	a	知識・技能	各課の内容、文法、語彙、表現、言語の働きを理解し、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身に付けている。		
		b	思考・判断・表現	各課の内容に関連するトピックについての概要、要点、詳細や、話し手や書き手の意図を理解し、それらについての考えや意見を持ち、それを英語で話したり書いたりして伝えている。		
		c	主体的に学習に取り組む態度	各課の内容に関連するトピックについての概要、要点、詳細や、話し手や書き手の意図を理解し、それらについての考えや意見を持ち、それを英語で話したり書いたりして伝えようとしている。		
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

学期	月	時数	学習項目	学習内容（単元の目標・評価基準等）	評価方法		
					a	b	c
前期	4	6	GET READY 1～4	・数字、文字、品詞について理解する。 ・教科書付録の辞書を使い、単語の調べ方を理解する。 ・ペアで簡単な質問をして、答え合うことができる。	(小) (パ)	(パ) (振) (ワ)	(振) (ワ)
	5	7	Lesson 1 The Beautiful Scenery	・be動詞・一般動詞の現在形を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付けている。 ・be動詞・一般動詞の現在形を用いて、お気に入りの場所について、考えや気持ちを話して伝えている。 ・be動詞・一般動詞の現在形を用いて、お気に入りの場所について、考えや気持ちを話して伝えようとしている。 ・行ってみたい場所について、表現したり、発表したりできる。 ・強勢とリズムを意識して英文を声に出して読むことができる。	(小) (パ) (考)	(パ) (振) (ワ) (考)	(振) (ワ)

	6	8	Lesson 2 My Best Friend	・be動詞・一般動詞の過去形を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付けている。 ・be動詞・一般動詞の過去形を用いて、日常生活について、考えや気持ちを話して伝えている。 ・be動詞・一般動詞の過去形を用いて、日常生活について、考えや気持ちを話して伝えようとしている。 ・大切にしているものや人について英語で表現したり、発表したりできる。 ・本文の登場人物の気持ちを考え、意見を交換することができる。 ・主語と動詞を意識して、英文を読み進めることができる。	(小) (パ)	(パ) (振) (ワ)	(振) (ワ)
	7	6	Lesson 3 Love for Dance	・進行形や助動詞を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付けている。 ・進行形や助動詞を用いて、提示された写真について、考えや気持ちを話して伝えている。 ・進行形や助動詞を用いて、提示された写真について、考えや気持ちを話して伝えようとしている。 ・絵や写真を見て思ったことや感じたことを表現することができる。 ・「ダンスの力」について感じたことについて話し合う。 ・rとlの音を区別することができる。	(小) (パ)	(パ) (振) (ワ)	(振) (ワ)
	9	8	FOCUS+ 1	・好きなスポーツ選手や好きな有名人についてやり取りや、自己紹介などをする。 ・現在進行形や過去進行形を用いて、状況を説明することができる。 ・好きな有名人や物について英語で尋ねることができる。 ・クラスメイトの紹介をすることができる。	(小) (パ) (考)	(パ) (振) (ワ) (考)	(振) (ワ)

学期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	10	7	Lesson 4 Endangered Species	・不定詞を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付けている。 ・不定詞を用いて、好きな動物について、考えや気持ちを話して伝えている。 ・不定詞を用いて、好きな動物について、考えや気持ちを話して伝えようとしている。 ・絶滅危惧種を救うために何ができるかを考え、意見を述べることができる。 ・代名詞を理解し、正確に英文を読むことができる。	(小) (パ)	(パ) (振) (ワ)	(振) (ワ)
	11	8	Lesson 5 The History of Chocolate	・動名詞を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付けている。 ・動名詞を用いて、健康に関することや空いた時間について、考えや気持ちを話して伝えている。 ・動名詞を使い、趣味についてペアで話すことができる。 ・動名詞を用いて、考えや気持ちを話して伝えようとしている。 ・大切な人に贈りたいと思うプレゼントについて説明することができる。 ・チョコレートの歴史について、話し合い発表することができる。 ・bとvの音を区別することができる。	(小) (パ)	(パ) (振) (ワ)	(振) (ワ)
	12	7	Lesson 6 Our School	・比較を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付けている。 ・比較を用いて、学校での生活について、考えや気持ちを話して伝えている。 ・比較を用いて、学校での生活について、考えや気持ちを話して伝えようとしている。	(小) (パ) (考)	(パ) (振) (ワ) (考)	(振) (ワ)
	1	6	Lesson 6 Our School	・比較を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付けている。 ・比較を用いて、学校での生活について、考えや気持ちを話して伝えている。 ・比較を用いて、学校での生活について、考えや気持ちを話して伝えようとしている。 ・瀬田工業高校定時制の特長について紹介することができる。 ・高校生活でどんなことがしたいかを話し合い、発表することができる。 ・接続詞の意味と役割を理解し、英文を読んだり書いたりすることができる。	(小) (パ)	(パ) (振) (ワ)	(振) (ワ)

2	6	FOCUS+ 2 COMMUNICATE+ 1	・好きな音楽についてペアで話し合うことができる。 ・日常生活で楽しんでいることについてペアで話し合うことができる。 ・2つのものを比べる質問をペアでしあい、話すことができる ・日常生活についての会話を聞きとることができる。	(小) (パ) (考)	(パ) (振) (ワ) (考)	(振) (ワ)
3	1					

担当者からのメッセージ（学習方法など）

<授業の進め方>

- ・教科書をベースに授業を進めていきます。補助教材としてプリントを用いて学習をしていきます。
- ・前期中間考査後から、単語テストを始めていきます。
- ・タブレット PC を用いるので、忘れないようにしてください。

<評価について>

- ・英語は4技能5領域について総合的に評価します。

※4技能5領域：読むこと、聴くこと、書くこと、話すこと（やりとり）、話すこと（発表）

- ・自分の意見を話したり書いたりする活動は、＜思考力・判断力・表現力＞、＜主体的に学習に取り組む態度＞の評価に大きく影響するので、積極的に取り組むようにしてください。

<アドバイス>

英語は積み重ねの科目です。いきなり得意になるわけではありませんので、毎日コツコツ努力を続けてください。読んだり聞いたりしたことが、書いたり話したりすることにつながります。

分からなければいつでも教科担当に相談してください。一緒に頑張りましょう。

令和7年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	工業	科 目	工業技術基礎	学 年	類 型	単 位 数
				1	全員	3
学習の 目標	工業に関する基礎的技術を実習・実験によって体験させ、各分野における技術への興味・関心を高め、工業の意義や役割を理解させるとともに、工業に関する広い視野を養い、工業の発展を図る意欲的な態度を身に付けさせる。					
使用教科書	工業技術基礎（実教出版）			副教材等	なし	
評 価	評 価 法		行動観察、レポート、作品、実技テスト			
	評価 観点 の 趣 旨	a	知識・技術	計測器・工具・機械等の使用機器について構造原理、使用方法を理解する。作業手順を把握し、正確に作業を行う技能・技術を習得する。		
		b	思考・判断・表現	実験や製作工程での状況や結果に着目し、作品製作に活かす。また、毎回の取組を考察し、的確に表現し、伝える能力を身に付けている。		
		c	主体的に学習に取り組む態度	安全作業に注意をはらい、最後まで粘り強く集中して作業を行い、作品を完成させる。工業技術について主体的に興味関心を持ち、その改善を目指して意欲的積極的に学ぶ態度を身に付けている。		
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

学期	月	時数	学習項目	学習内容（単元の目標・評価基準等）	評価方法		
					a	b	c
前期	4	6	オリエンテーション	○工業技術基礎の年間計画と評価方法について理解する。 ○実習全般における安全作業について理解する。 ○学ぶ目的を理解し、工業の基礎となる知識や技術に興味・関心を持つとともに、実験・実習に主体的に取り組む態度を身につけている。 ○レポートにより、実験・実習の目的や内容を捉え、事後にも役立つように思考して判断力を高め、的確な表現力を身につけている。 ○安全作業に主体的に興味・関心を持ち、その改善向上をめざして意欲的に取り組む態度を身につけている。	レポート	レポート	レポート 行動観察
	5	12	電気工事1 （ケーブル・電線の基本操作）	○電気は取り扱いを誤ると感電や漏電火災など人命にかかわる重大な事故が起こることから、その工事の施行方法や必要な資格などについて正しく理解し、安全に配慮しながら作業ができる力を身につける。 ○ケーブル・電線の剥ぎ方及び電線の輪づくりを通しての基本作業を身に付け安全性を考え主体的に作業をする力を身につける。 ○実習の目的、内容を理解し振り返って、問題点を見直し自己能力の向上を目指す。	レポート 作品 行動観察	レポート 作品 行動観察	行動観察
			電気工事2 （ケーブルの接続）	○電気工事で使用する部品の名称や記号を理解し、電気工事の図面（単線図）を実際に配線できる図面（複線図）に直し、実際の配線を安全に配慮しながら、線の加工をして配線する力を身につける。 ○実習の目的、内容を理解し振り返って、問題点を見直し単線図から複線図に直す力を付け、自己能力の向上を目指す。			
	6	12	基礎計測1 （計器の取り扱い方）	○電気を測定するため、電圧計、電流計が測定できるように測定機器の正しい取り扱いや目盛りの読み方を身につける。 ○電圧計、電流計の種類や記号を理解する。 ○電圧計、電流計の単位変換や接続方法を理解する。	レポート 行動観察	レポート 行動観察	行動観察
			基礎計測2 （オームの法則）	○オームの法則を理解し電圧、電流、抵抗の関係を測定して理論に近くなることを確かめる。			

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
前 期	7	12	ガス溶接 1	○ガス溶接装置についての取り扱いや操作方法を習得する。 ○保護メガネや手袋などを正しく用いることができ、安全に作業することができる。 ○酸素やアセチレンの性質について理解する。	レポ ート	レポ ート	行 動 観 察
			ガス溶接 2	○アセチレンや酸素の圧力を調節し、標準炎に調整することができる。 ○溶接トーチを動かしながら、正常なビード置きができる。 ○2枚の板を突合せ接手で溶接できる。	作 品	作 品	
					行 動 観 察	行 動 観 察	
					実 技 テ ス ト	実 技 テ ス ト	
前 期	9	12	機械計測 1	○ノギス、スケールの構造・原理、操作方法を理解する。 ○ノギス、スケールを正しく取り扱い、工作物の各部の長さを適切に計測することができる。 ○測定対象に応じてノギスの取り扱い方法を使い分けることができ、正確に計測しようと粘り強く取り組むことができる。	レポ ート	レポ ート	行 動 観 察
			機械計測 2	○マイクロメータの構造・原理、操作方法を理解する。 ○マイクロメータを正しく取り扱い、工作物の長さを適切に計測することができる。 ○マイクロメータとノギスの各特徴を理解し、測定範囲や精度に応じて正確に計測しようと粘り強く取り組むことができる。	実 技 テ ス ト	実 技 テ ス ト	
					行 動 観 察	行 動 観 察	

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	10	9	電気工事3 (点灯回路)	○屋外から屋内に入る電線の配電方式や分電盤の安全装置を理解し、 屋内配線の基礎を学び分電盤からの配線を理解し、単線図から複線図 に直し、配線作業を行い安全性を考え主体的に作業をする力を身につ ける。 ○実習の目的、内容を理解し振り返って、問題点を見直し単線図から複 線図に直す力を付け、自己能力の向上を目指す。	レポ ート	レポ ート	レポ ート
			電気工事4 (同時点灯回路)	○屋内配線図より複線図を作り配線を行う。 ○電気工事士2級を目指して能力向上を目指す。 ○実習の目的、内容を理解し振り返って、問題点を見直し単線図から複 線図に直す力を付け、自己能力の向上を目指す。	作品 行動 観察	作品 行動 観察	行動 観察
	10	3	基礎計測3 (抵抗の直列接続)	○キルヒホッフの電圧の法則とオームの法則より各抵抗の電圧が計算 で予測できることを学び、測定値が理論値に近くなることを測定する ことで理解する。	レポ ート	レポ ート	レポ ート
	11	6	基礎計測4 (抵抗の並列接続)	○キルヒホッフの電流の法則とオームの法則より各抵抗の電流が計算 で予測できることを学び、測定値が理論値に近くなることを測定する ことで理解する。	行動 観察	行動 観察	行動 観察
	11	6	旋盤1	○旋盤各部の名称を覚え、旋盤の取り扱いや操作方法を習得する。 ○旋盤作業における安全な作業を習得する。	レポ ート	レポ ート	レポ ート
	12	3	旋盤2	○バイトの種類や要素について理解する。 ○外丸削りや端面削りの作業を通して加工作業を習得する。 ○マイクロメータカラーの目盛を正しく読み取ることができる。	作品 行動 観察 実技 テスト	作品 行動 観察 実技 テスト	行動 観察
	12	3	手仕上げ1	○けがき作業で用いる各種工具の名称と用途を理解する。 ○目的に適したけがき作業の手順を正しく理解する。	レポ ート	レポ ート	レポ ート
	1	6	手仕上げ2	○各工程での用途に応じた工具の正しい選定や使用方法の知識を習得 し、安全に配慮した作業方法の技能を身につけている。 ○安全作業に留意し、粘り強く作業に取り組むことができる。 ○手仕上げで用いる各種工具の名称と用途を理解する。 ○製作物の作業工程およびその作業手順を正しく理解する。 ○ねじ切り作業の方法や原理を習得し、正確なめねじ加工の技能を身 につけている。 ○安全作業に留意し、粘り強く作業に取り組むことができる。	作品 行動 観察	作品 行動 観察	行動 観察

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 （単元の目標・評価基準等）	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	1	3	製作実習 1 （機械類型）	○文鎮のつまみを図面通りの寸法で切削することができる。 ○突切り作業が切削油を用いて、安全に作業できる。 ○ネジ立て作業の正しい手順を理解し、おねじを切ることができる。 ○製作した部品の組み立て方法を理解する。 ○金属材料の仕上げ処理方法を理解する。 ○作品の完成度にこだわり、研磨作業を粘り強く取り組むことができる。	レポ ート	レポ ート	レポ ート
	2	3			作品	作品	行動 観察
					行動 観察	行動 観察	
	2	6	製作実習 2 （電気類型）	○1年間学んだ知識や技能を使い、ものづくりに取り組む。ものづくりの楽しさや難しさ、完成したときの達成感や満足感を実感させる。 「センサーライトの製作」を通してセンサー基板の固定台の加工をする事により、図面どおり加工する技術を身に付ける。 基板製作を通して、はんだ付けの技術を身に付ける。また、センサーなどの電子部品について理解を深め、世の中にある製品が同じように製造されていることを理解して、ものづくりの基礎を学ぶ。	レポ ート	レポ ート	レポ ート
	3	3			作品	作品	行動 観察
					行動 観察	行動 観察	

担当者からのメッセージ（学習方法など）

<持ち物>

教科書、筆記用具、実習服・実習靴・実習帽

<アドバイス>

定期考査は実施しないので、毎回の授業での取組が一層大切となります。

実習服・実習靴・実習帽は必ず着用し、安全に係わる諸注意は厳守してください。

レポート作成のため、教科書、筆記用具を忘れず持参しましょう。

令和7年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	工業		科 目	工業情報数理	学 年	類 型	単 位 数
					1	全 員	2
学習の 目標	工業の各分野において情報技術の及ぼす影響を理解し、関連する技術を主体的に身に付けようとする態度を養う。コンピュータの構造やシステム、また情報モラルや情報セキュリティ理解し、適切に扱うことができる。工業に関する事象の数理処理について、アルゴリズムとプログラムを活用しながら問題を解決する力を身に付ける。効果的なコミュニケーションのために、他者に読み取りやすいように情報を整理することができる。						
使用教科書	精選工業情報数理（実教出版）				副教材等	情報デザインに関する自主教材	
評 価	評 価 法			ワークシート、定期考査、小テスト、行動観察、振り返りシート （下記、評価方法においてそれぞれ、ワ、定、小、行、振、と記述する。）			
	評 価 観 点 の 趣 旨	a	知識・技術	ICT に関する専門用語や法律、制度の意味を理解し覚えている。実技については、適切な操作が行える。			
		b	思考・判断・表現	課題や問題の意味を理解し考えることができる。また、考えた内容を適切に表現することができる。			
		c	主体的に学習に取り組む態度	情報に関する用語などを、ワークシートや教科書、コンピュータなどで調べて理解しようとしている。プログラムやソフトウェアの演習問題では、コンピュータなどを実際に活用しながら、理解しようと粘り強く取り組んでいる。			
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

学期	月	時数	学習項目	学習内容（単元の目標・評価基準等）	評価方法		
					a	b	c
前期	4	6	情報化社会のモラルと管理	○著作権や産業財産権などの、知的財産権について理解する。 ○ものづくりの現場では様々な工夫やアイデアが活用されており、それを社外に持ち出さないために、工場内へのスマートフォン・携帯電話の持ち込みを禁止するような規則があることを理解する。	ワ 小	小 振	行 振
	5	6	処理装置と周辺装置	○コンピュータを構成している装置について学び、それぞれの役割を理解する。 ○コンピュータのスペックについて、メモリの量やCPUの処理速度の意味を理解する。 ○入力装置や出力装置、補助記憶装置などの、具体的な名前と特徴について答えることができる。	ワ 小	小 振	行 振
	6	6	ネットワーク	○コンピュータネットワークの概要について理解する ○コンピュータネットワークを構成する機器について理解する ○伝送方式について理解する ○インターネットへの接続について理解する	ワ 小	小 行	行 振

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
前 期	7	6	情報セキュリティの管理	○ハッカーやファイアウォール、コンピュータウイルスといった情報セキュリティに関する用語について、その意味を理解する。 ○コンピュータで扱う情報の、暗号化技術について理解する。 ○情報セキュリティの重要性を理解し、セキュリティ対策をすることができる。 ○クレジットカードや暗証番号などを、適切に取り扱うことができる。	ワ 小 定	小 行 定	行 振
		6	問題の発見・解決と情報技術の活用	○問題の発見と解決の手順について学ぶ。 ○数値のシミュレーションによる、問題の発見と解決方法について学ぶ。 ○利用者の目線に立ち、分かりやすく表現する手法を理解する。	ワ 小	小 行	行 振
	9	6	情報デザイン	○効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を学ぶ。 ○コミュニケーションの目的を明確にして、適切かつ効果的な情報デザインを考え、状況に応じた適切かつ効果的な表現方法を理解する。 ○メディアにあった表現方法を考えて、適切に選択することができる。	ワ 小 定	小 行 定	行 振

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 （単元の目標・評価基準等）	評 価 方 法		
					A	b	c
後 期	10	4	コンピュータ の基本操作と ソフトウェア	○コンピュータの起動と終了ができる。 ○マウスを操作し、ソフトウェアの起動と終了ができる。 ○ドラッグアンドドロップによる範囲選択や、ファイルの削除ができる。 ○ファイル名の変更と、ファイルの保存場所の移動ができる。 ○コンピュータの基本操作に関する用語について、その意味を理解する。	ワ		行
	11	6	日本語ワード プロセッサソ フトウェア	○文字の書体や大きさなどを、指示の通りに変更することができる。 ○用紙サイズや印刷の向き、余白の設定などを、状況に合わせて変更することができる。 ○情報デザインの考えをもとに、読み取りやすい文章ファイルを作成することができる。	ワ		行
	12	8	表計算ソフト ウェア	○表計算ソフトウェアを活用し、四則演算をすることができる。 ○セルの書式設定を変更し、表示する桁数を変更することができる。 ○罫線やセルの塗りつぶしなどができる。 ○フィルタ機能を活用し、データの並べ替えや表示の変更をすることができる。 ○関数を使い、データの処理をすることができる。 ○データを元にグラフを作成することができる。 ○情報デザインの考えをもとに、数値を読み取りやすく表現することができる。	ワ		行

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 （単元の目標・評価基準等）	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	1	8	第3章 プログラミング	○コンピュータにおける、プログラムの役割を理解する。 ○C言語やBASICなどのプログラム言語の種類について学び、その特徴について答えることができる。 ○簡単な計算問題について、順次型のプログラムをBASICで記述することができる。 ○選択型のアルゴリズムになる問題について、そのプログラムを記述することができる。 ○繰返し型のアルゴリズムになる問題について、順次型で記述したプログラムと比較して、繰返し型のプログラムの利点を理解する。	ワ 小	小 行	行 振
	2	4	第7章 3節 モデル化とシミュレーション	○速度と移動距離のような工業に関する事象についてモデル化し、表計算ソフトウェアを活用して結果を予測することができる。 ○目的の結果を得るためには、パラメータをどの様に変化させる必要があるのか考え、問題解決に向けて取り組むことができる。	ワ 小	小 行	行 振
	3	4	第7章 1節 単位と数値処理	○計算問題などにおける、量記号と単位記号について理解する。 ○SI基本単位について学ぶ。	ワ 小 定	小 行 定	行 振

担当者からのメッセージ（学習方法など）

<授業の進め方>

教科書と、授業で配布するワークシートを元に授業を展開します。

<持ち物>

教科書、ファイル、筆記用具、タブレット

<アドバイス>

表計算ソフトウェアやプログラムなどは、実際にパソコンで取り組んでください。プログラムから表示結果を考える問題では、命令文の意味合いや指示方法を確認しながら取り組み、分からない場合には実際にプログラムを組んで実行して確認するようにしてください。繰り返し練習することで、少しずつ理解し、覚えることができるようになります。

<その他>

生徒の状況に応じて、学習項目にかかる指導時間や内容については変更することがあります。

令和7年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	工 業		科 目	製図	学 年	類 型	単 位 数
					1	全 員	1
学習の 目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の各分野の製図に必要な資質・能力を育成することを目指す。						
使用教科書	製図（実教出版）				副教材等	なし	
評 価	評 価 法			ワークシート、定期考査、小テスト、行動観察、振り返りシート （下記、評価方法においてそれぞれ、ワ、定、小、行、振、と記述する。）			
				日本産業規格における製図の用語や一般原則を身に付け、図面で表現された部品がどのような形状なのかを読み取ることができる。			
	評 価 観 点 の 趣 旨	a	知識・技術	各種の投影法や製図の一般原則を身に付け、製造する部品の図面を描くことができる。工業製品や工作方法に対する理解を深め、部品の図面を描くのに適した正面図を選択したり、加工のしやすい寸法指定をしたりすることができる。			
		b	思考・判断・表現	図面の読み方・描き方を学習するなかで、立体模型や三次元データなどの補助教材を活用しながら、理解しようと粘り強く取り組んでいる。			
		c	主体的に学習に取り組む態度	上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。			

学期	月	時数	学習項目	学習内容（単元の目標・評価基準等）	評価方法		
					a	b	c
前期	4	1	第1章 第1節 製図を学ぶにあたって	○ものづくりにおける図面の果たす役割、および製図に関する国際規格や日本産業規格について学習する。 ○図面を描くときに決められた規則に従うことで、製造する物を他者に正確に伝えることができることを理解する。	ワ	振	行振
		1	第6節 1 投影法	○第三角法での表現方法について学習する。正面図、平面図、右側面図などの各投影図の意味と関係を理解する。 ○等角図の表現と、第三角法での投影図との関係を理解する。	ワ振	振	行振
	5	3	投影図のかき方・基礎	○単純な形状の立体模型や三次元データから、その正面図、平面図、右側面図を描くことができる。 ○単純な形状の等角図から、その投影図を描くことができる。	ワ小	振小	行振
		1	第7節 2 等角図	○等角図での表現方法について学習する。正面図、平面図、右側面図などの各投影図と、等角図の関係を理解する。	ワ振	振	行振
	6	4	等角図のかき方・基礎	○単純な形状の立体模型や三次元データから、その等角図を描くことができる。 ○単純な形状の投影図から、その等角図を描くことができる。	ワ小定	振小定	行振
	7	1	第3節 1 線の種類	○外形線やかくれ線など、図面を描くときには種類に応じて線をかき分けることを理解する。 ○線の名称と使い分けについて、答えることができる。	ワ	振	行振
		2	かくれ線を含む、投影図のかき方	○かくれ線を含む単純な形状の立体模型や三次元データから、その正面図、平面図、右側面図を描くことができる。 ○かくれ線を含む単純な形状の等角図から、その投影図を描くことができる。	ワ小	振小	行振
	9	3	かくれ線を含む、等角図のかき方	○かくれ線を含む単純な形状の立体模型や三次元データから、その等角図を描くことができる。 ○かくれ線を含む単純な形状の投影図から、その等角図を描くことができる。	ワ小定	振小定	行振

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	10	1	第 11 節 1 寸法の表し方	○図面における、寸法記入の方法を学ぶ。 ○寸法線や寸法補助線といった、各線の名称を答えることができる。	ワ	振	行 振
		3	複雑な図形の、 投影図のかき 方	○斜面を含む複雑な形状の立体模型や三次元データから、その正面図、平 面図、右側面図を描くことができる。 ○斜面を含む複雑な形状の等角図から、その投影図を描くことができる。	ワ 小	振 小	行 振
	11	1	第 11 節 2 いろいろな寸 法記入の方法	○寸法補助記号や、穴の寸法の表し方などの、寸法記入の方法を学ぶ。 ○φやrなどの寸法補助記号の、読み方と意味を答えることができる。	ワ	振	行 振
		3	複雑な図形の、 等角図のかき 方	○斜面を含む複雑な形状の立体模型や三次元データから、その等角図を 描くことができる。 ○斜面を含む複雑な形状の投影図から、その等角図を描くことができる。	ワ 小	振 小	行 振
	12	1	第 12 節 1 図面の様式	○図面に用いられる尺度や、表題欄の記入例など、図面の様式について学 ぶ。 ○部品欄と照合番号の関係を理解する。	ワ	振	行 振
		2	普通公差	○図面に記入されている寸法の普通公差について、その意味や指定の方 法を学ぶ。 ○図面で指定されている寸法には、特別な場合を除き、すべて公差が指定 されていることを理解する。	ワ 定	振 定	行 振
		2	複雑な形状の、 投影図のかき 方	○曲面を含む複雑な形状の立体模型や三次元データから、その正面図、平 面図、右側面図を描くことができる。 ○曲面を含む複雑な形状の等角図から、その投影図を描くことができる。	ワ 小	振 小	行 振
	2	2	第 2 章 第 5 節 サイズの許容 限界およびは めあい	○部品の組み立て部分のはめあい公差について、その種類や意味と指定 の方法を学ぶ。 ○φ30g5などの寸法表記から、その許容差を答えることができる。 ○図面の寸法表記と、製品の寸法検査結果から、製品の良否を答えること ができる。	ワ 小	振 小	行 振
		2	複雑な形状の、 等角図のかき 方	○曲面を含む複雑な形状の立体模型や三次元データから、その等角図を 描くことができる。 ○曲面を含む複雑な形状の投影図から、その等角図を描くことができる。	ワ 小	振 小	行 振
	3	2	第 6 節 1 幾何公差	○幾何公差の意味やその種類、指定の方法を学ぶ。 ○幾何公差の記号や名称、その意味を答えることができる。	ワ 定	振 定	行 振

担当者からのメッセージ（学習方法など）
<授業の進め方> 教科書と、授業で配布するワークシートを元に授業を展開します。 <持ち物> 教科書、ファイル、筆記用具、タブレット <アドバイス> 立体形状の投影図や等角図をかくためには、繰り返し練習が必要になります。立体模型や三次元データを活用し、簡単な形状から少しずつ、複雑な形状の図面もかくことが出来るように練習をするようにしてください。 <その他> 学習項目は前後することや、内容を変更することがあります。

令和7年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	工業	科 目	機械工作	学 年	類 型	単 位 数
				1	全員	1
学習の 目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、機械材料の加工や工作に必要な資質・能力を育成することを目指す。					
使用教科書	機械工作 1・機械工作 2（実教出版）			副教材等	なし	
評 価	評 価 法			プリント、振り返りシート、定期考査、行動観察		
	評 価 観 点 の 趣 旨	a	知識・技術	基礎的な知識と技術を理解し、工業の発展と調和のとれたありかたや現代社会における工業の意義や役割を理解している。また、ものづくりでのいろいろな場面で問題解決を試みることができるように相互に関連させて理解している。		
		b	思考・判断・表現	機械工作に関する諸問題の解決をめざして自ら思考を深め、基礎的基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。また、その成果を適切に表現することができる。		
		c	主体的に学習に取り組む態度	身近な製品に関心を払うなどして、機械工作に関する基礎的な知識と技術に関心をもち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに実際に活用しようとする創造的実践的な態度を身に付けている。		
		上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

学期	月	時数	学習項目	学習内容（単元の目標・評価基準等）	評価方法		
					a	b	c
前期	4	2	第2章 機械材料 1. 材料の機械的性質	○ 機械材料の種類や機械的性質などを、相互に関連付けて総合的に把握し、適切に活用することができる。	プリント 振り返りシート 前期中間考査	プリント 振り返りシート 前期中間考査	行動観察 振り返りシート
	5	4		○ 軟鋼の応力-ひずみ線図を図解することができ、弾性限度や降伏点、引張強さなどを理解している。			
	6	2		○ 機械材料の性質と種類について、レポートにまとめたり、説明することができる。			
				○ ものづくりの中でさまざまな機械材料が使われていることに興味を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。			
	7	3	2. 金属の結晶と加工性	○ 金属・合金の結晶構造および金属組織を理解し、図解できる。	プリント 振り返りシート 前期末考査	プリント 振り返りシート 前期末考査	行動観察 振り返りシート
	9	4		○ 合金の状態図を理解している。 ○ 金属の加工性について把握し、活用することができる。 ○ 金属の結晶格子について、その特徴を比較し、説明することができる。 ○ 金属の結晶構造や金属組織について興味を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。			

学期	月	時数	学習項目	学習内容（単元の目標・評価基準等）	評価方法		
					a	b	c
後期	10	3	第10章 生産計画・管理と生産の効率化 1. 生産計画と管理	○ 効率的に生産を進める生産計画を立案し、いろいろな場面で活用できるように理解している。 ○ PDCAサイクルについて説明することができる。 ○ 生産計画の目的と効果および方法を説明することができる。 ○ 生産計画は生産形態に合わせて立てられることを理解している。	プリント 振り返りシート 後期中間考査	プリント 振り返りシート 後期中間考査	行動観察 振り返りシート
	11	4					
	12	3	2. 生産を支える管理システム	○ ものづくりを支障なく進めることができる資材管理、設備管理、原価管理の計画を立案し、いろいろな場面で活用できるように理解している。 ○ 資材、設備、原価管理の目的と効果および方法を説明することができる。 ○ 資材、設備、原価管理について理解しようとしている。 ○ 運搬計画について改善のための観点について理解しようとしている。	プリント 振り返りシート	プリント 振り返りシート	行動観察 振り返りシート
	1	3					
	2	1					
	3	3	第6章 切削加工 2. おもな工作機械と切削工具	○ 各種の工作機械の名称、基本的な構造、加工内容を把握し、ものづくりの場面で活用できるように理解している。 ○ 各種の工作機械が可能な加工内容を説明することができる。 ○ 旋盤・フライス盤の基本的な構造やしくみに関心をもち、合理的に操作して加工できるように意欲的に学習に取り組もうとしている。	プリント 振り返りシート 後期期末考査	プリント 振り返りシート 後期期末考査	行動観察 振り返りシート

担当者からのメッセージ（学習方法など）

<持ち物>

教科書、ファイル、筆記用具、タブレット

<アドバイス>

授業では材料の性質や特性等を学びます。教科書を基本に進めていきます。復習をしっかりとて、基本事項を学んでください。

<その他>

学習項目は前後することや、内容を変更することがあります。

令和7年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	工業	科 目	電気回路	学 年	類 型	単 位 数
				1	全員	1
学習の目標	電気回路について電氣的諸量の相互関係を踏まえて理解するとともに、その理解に必要な計算力の定着を目指す。					
使用教科書	電気回路 1，電気回路 2（実教出版）			副教材等	なし	
評 価	評 価 法		ノート、プリント、小テスト、行動観察、振り返りシート、定期考査等			
	評価 観点 の 趣 旨	a	知識・技術	基本的な電気現象、電気現象を量的に取り扱う方法、電氣的諸量の相互関係について原理・法則を理解し、知識と技術を身につけている。		
		b	思考・判断・表現	基本的な電気現象の意味を考え、変化に対する結果を電気に関する知識と技術を活用して考察する力を身に付ける。また、導き出した考えを的確に表現することができる。		
		c	主体的に学習に取り組む態度	基本的な電気現象と、その現象が数式により表現できることに関心をもち、新しい事柄に対して意欲的に学習に取り組んでいる。		
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

学期	月	時数	学 習 項 目	学 習 内 容 （単元の目標・評価基準等）	評 価 方 法		
					a	b	c
前期	4	3	回路計算に必要な数学 1. 分数の計算 2. 文字の式 3. 方程式	○分数を理解し、通分、約分、最大公約数、最小公倍数を理解できる。 ○分数の足し算、引き算、掛け算、割り算など基礎計算ができる。 ○文字を使った計算式を簡単化して、基礎計算ができる。 ○数値、文字の移行を理解し、文字に入る数値が計算できる。 ○指数法則を理解し、式の簡単化ができる。	プリント ノート 小テスト	プリント ノート 小テスト	行動観察 振り返りシート
	5	4					
	6	4	第1章電気回路の要素 電気回路の電流と電圧 1節. 直流回路の電流	○電流が電子の流れに関係していることを理解し、電流の大きさを電荷と導線の断面積、時間から求めることができる。 ○電気回路図の意味や書き方について理解を深めようと主体的に学習に取り組んでいる。電流・電圧・抵抗の関係について理解できる。 ○電流計・電圧計の接続方法や回路図を理解できる。	プリント ノート 小テスト	プリント ノート 小テスト	行動観察 振り返りシート
	7	3	2節. 抵抗器・コンデンサ・コイル	○電気回路における抵抗器・コンデンサ・コイルの役割について、理解できる。	プリント ノート 小テスト	プリント ノート 小テスト	行動観察 振り返りシート
	9	4	第2章直流回路 1節. 直流回路 1. オームの法則	○オームの法則を用いて、電流、電圧および抵抗の未知量を求めることができる。 ○オームの法則による計算、および抵抗の接続方法について、理解を深めようと主体的に学習に取り組んでいる。	前 期 期 末 考 査	前 期 期 末 考 査	

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	10	2	2. 抵抗の直列 接続	○オームの法則を考察し、式で表現できる。また、複 数の抵抗や電源が接続されたとき、各抵抗にどのよう な電流が流れるかを考察し表現できる。 ○オームの法則を用いて、直列回路の各抵抗の電圧、 電流などを求めることができる。	プリント ノート 小テスト	プリント ノート 小テスト	行動 観察 振り 返し シート
		2	3. 抵抗の並列 接続	○オームの法則を用いて、並列回路の各抵抗の電圧、 電流などを求めることができる。			
	11	2	4. 抵抗の直並 列接続	○オームの法則を用いて、抵抗の直列、並列の合成接 続を理解し各抵抗の電圧、電流などを求めることがで きる。	プリント ノート 小テスト	プリント ノート 小テスト	行動 観察 振り 返し シート
		2	5. 電流・電圧・ 抵抗の測定	○分流器と直列抵抗器を理解し、電流計及び電圧計の 測定範囲を拡大して求めることができる。			
	12	3	6. 電池の接続	○同じ起電力の電池でも、接続する抵抗によって、端 子電圧が変化することを理解できる。 ○電池の直並列接続の端子電圧を計算で求めること ができる。	後 期 中 間 考 査	後 期 中 間 考 査	
	1	3	7. キルヒホッ プの法則	○キルヒホッフの法則について理解させ、キルヒホッ プの法則を用いた計算に習熟させる。 ○キルヒホッフの法則を用いて回路の電流、電圧を求 めることができる。	プリント ノート 小テスト	プリント ノート 小テスト	行動 観察 振り 返し シート
	2	3	2 節電力と熱 1. 電流の発熱 作用	○ジュールの法則を用いて電流による発熱量、電力な どを求めることができる。また、電線などの許容電流 やゼーバック効果、パルチエ効果などの熱と電気の現 象について理解できる。 ○物質の抵抗率や導電率が断面積や長さ、温度に関係 していることを理解し、抵抗率や抵抗温度係数を求め ることができる。	後 期 期 末 考 査	後 期 期 末 考 査	
	3						

担当者からのメッセージ（学習方法など）
<授業の進め方> 教科書、プリントを基本に進めます。 <持ち物> 教科書、ノート、筆記用具、タブレット、ファイル <アドバイス> 計算の基礎から行います。積み重ね学習なので、しっかりと授業を聞いて、自分なりにノート等をまとめ、家 で学んだ内容を確認しながら各単元の復習をして下さい。 <その他> 生徒の状況に応じて、学習項目にかかる指導時間数や内容については変更することがあります。